



昨年11月、はるばる長崎にまで行ったのだが、その際せっかくここまで来たのだからと貧乏根性丸出しであちこち寄ってきた。そのひとつが佐世保にある、単独のテーマパークとして日本一の広さを誇るハウステンボスだ。いい年こいたおっさんがテーマパークかいとツツコミが聞こえてきそうだが、楽しいのだから仕方がない。

ハウステンボスの特徴はオランダを中心としたヨーロッパの街並みを再現しているところ。そのためグリグリ動き回るものに乗らなくとも、ただいだけで十分楽しめるのだ。そしてここの最大の魅力はなんといっても目眩く光の演出。それを堪能するためにも、泊まりがけで行くことを強くお勧めする。4つあるオフィシャルホテルのなかでも特筆すべきは「ホテルアムステルダム」。外観や内装もちろん素敵なのだが、このホテル、なんと唯一テーマパークの敷地内に立地しているのだ。というこ

とは、閉園したパーク内を堂々とうろつくことが出来るということ。どうです？すごいでしょう。

そんな素敵なお空間も、今年はコロナ禍で一時は休園に追い込まれ、営業再開してからインバウンドの消失で苦戦を強いられているという。出張滞在中、ずっと天気の良い長崎の空のように、晴れやかな気持ちで再訪できる日が来ることを心から願っている。

(LDS和田竜哉)



ホテルアムステルダムの外観



客室から。正面建物の壁にプロジェクションマッピングも



光の運河を進む舟。もちろん乗ることもできる

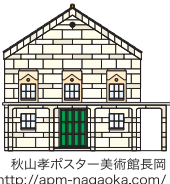
Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

秋山孝長岡コレクション 222

長岡出身の秋山氏が自作を語る・マイスキップ誌上展
http://www.tamabi.ac.jp/gurafu/akiyama/



秋山 孝 多摩美術大学教授・秋山孝ポスター美術館長岡/館長
1952年長岡市生まれ。多摩美術大学卒業。東京藝術大学大学院修了。2009年「秋山孝ポスター美術館長岡」、2013年「秋山孝ポスター美術館長岡・蔵」が完成。1986年、自然保護ポスター「WILD LIFE-HELP」でワルシャワ国際ポスタービエンナーレ・金賞を受賞し、1998年、インド核実験反対のポスターで国連賞を受賞。他、多数受賞。フィンランド、メキシコ、イタリア、ウクライナ、中国、アメリカ、ポーランド、他で国際ポスター展の審査員として招聘。著書に「イラストレーションスタディーズ」(玄光社)、「Chinese Posters (中国ポスター)」(朝日新聞出版) 他多数。



秋山孝ポスター美術館長岡
http://apm-nagaoka.com/



[Title] ----- Student Conference 2018
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] --- Offset printing
[Date] ----- 2018
[Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
[Category] --- Social, Education
[Idea] ----- まるでお互いに心を知り尽くした人間のように理解しあっている様子をデフォルメ表現を使い、イラストレーション化した。



秋山孝ポスター美術館長岡

本年度よりリニューアル休館中です。
Tel, Fax : 0258-39-1233 E-mail : info@apm-nagaoka.com

CLOSE

MySkipが休刊するまで222点の創作したポスターとコメントそれに444点のスナップ写真を掲載しました。小さなスペースですが、掲載し続けることの喜びと価値を多くの胸に大切に保管します。

2018年7月14日に多摩美術大学レクチャーホールCにて「発想の秘密③デフォルメ表現」というテーマでスチューデント会議が開催された。この会議は、イラストレーションを研究する上で重要なキーワードを取り上げ、それについて意見交換したり、またはその成り立ちや意味から導き出された形について独自の見解を作り上げる会議だ。ポスターデザインは犬をモチーフとした。まるでお互いに心を知り尽くした人間のように理解しあっている様子をデフォルメ表現を使い、イラストレーション化した。



(上) 秋山孝による展覧会バナー
(下) 展示会場 / 多摩美術大学デザイン棟マルチメディアルームD

外山文彦の アート日和 86

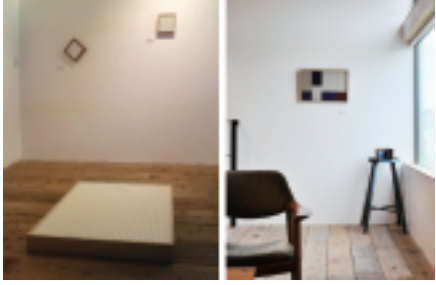
▶最終回とは言わないけれど

先月迄の1か月半、筆者のプロデュースにより青葉台TWOOL GALLERYを会場に連続2展を開催していた。私自身の個展と鉄の彫刻家・霜島健二さんの個展である。大きな窓、木の軸組と白い壁が映える木造2階建て建物は1階が陶器セレクトショップで、その吹抜上部の2階を使つての企画。店主から階上を有効活用したいと話を受け、秋のシリーズ企画展として提案した。

本紙は今回号をもち休刊で、先月号からさよならムードも出ているなか何を書こうかずっと思案していたけれど、その自らの個展について少し触れたい。空間特性の面白さ故からで、例えば階高のある会場は明る



TWOOL GALLERYでの外山文彦展
2020年10月2日～17日



左は同展第二展示室から
既製品建材をアートに仕立てた作品群

デザインの大学の多様性を活かして

▶造形する風「長岡造形大生紙上ギャラリー」の10年

外山文彦 (本紙「造形する風」担当)

右頁の上段に、長岡造形大学の学生や院生の作品や研究を取り上げる連載がある。今年10年目、長期連載となったその「造形大生紙上ギャラリー」について、記事担当者として最後触れておくことにしたい。

コーナー「造形する風」自体は長岡造形大学の取り組みを紹介する目的で2008年1月号に始まり、連載を続ける中でそこに学ぶ学生たちも取り上げていこうと、2011年4月号から「紙上ギャラリー」編にと移行した。基本は毎月1人ずつの紹介、ユニットとして複数名紹介の回もあるから今号で計132人を取り上げたことになる。

大勢の学生の中から誰を取り上げるか。紙面企画の背景を書けば、「デザインの大学」と謳う大学の多様性を活かすことをまず念頭に置いた。一口にデザインと言っても今やその裾野は広い。建学の理念にも「(世界はボーダーレスの時代に) デザインの領域も大きく広がり、生命科学から情報工学、環境工学、宇宙工学に至るまで、さまざまな分野での研究成果は『デザイン』という創造行為を経てはじめて形を獲得」と示され、実際に学生たちの興味や活動も幅広くある。今年紹介した学生を例にしても「照明器具の新しいデザイン」「ラジオ番組の制作と発信」「ラオスで実際に販売する商品のパッケージデザイン」「水の動きを作品化」「名画のパロディのデザイン」etcと多彩だ。連載を通じ市民に地元大学の特長をより感じてもらえればと意図したのである。

具体的な学生の選び方は、例えば各教授に依頼し研究室持ち回りスタイルという(編集サイドからすると一番手取り早い)やり方はあるが、敢えてその方法を取らな

外山文彦／長岡市在住美術作家。1999年からアートコーディネーターとして活動。2016年オープンの見附市民ギャラリーでは2015年から開館立ち上げに従事、礎を築き2019年8月まで同館副館長。弥彦・野外アート展にコーディネーターとして参画。アトリエZen主宰

く開放的で好い雰囲気な一方、窓から日が射し込むという展示上のデメリットや制約を内包するが、展覧会ではそれらも組み入れ逆に活かしている。特徴を活かす構成に意味があると本紙最後に留めておきたいと思ったのである。付記すれば同店のリニューアル予定などもあり、だからこの新鮮な空間を全域で駆使する展示は最初で最後の可能性もある。貴重なシリーズ企画かもしれない。

さて本コラムの「アート日和」というタイトル。連載開始の16年前、当時の編集デザイナー氏が命名し、同名のブログも初期の頃に開設している。「マイスキップ連載コラムのブログ版」と謳うそのサイトはそのまま継続するから、アート日和的には最終回とは言わないでおきたい。今後の情報なりはブログのほうをご覧ください。今後の情報なりはブログのほうをご覧ください。

■アート日和 blog版

https://atelierzen.blog.fc2.com/

来年の展覧会をひとつ挙げておくと、若手作家をとりあげる展覧会(エックス展)を3月に長岡市美術センターで開催予定。「エックス=未知数(の可能性)」と捉え、若い世代の表現から未知の可能性を探りたく2010年から続ける美術展で、第11回の今回は20人の出展が決まっている。他、来年開始予定の新企画も出ていてそれらを紙面で紹介できないのは残念だけれど、またどこかでお会いしましょう。

エックス展vol.11

会期:2021年3月21日(日)～3月28日(日)、月曜休館／会場:長岡市美術センター(長岡市中央図書館2階)

問合せ:080-3320-7559(アトリエZen)